

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五（六）公衆〇四七二（22）七二〇七

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉碎！

# 労働運動解体 = 10万人首切強行の杉浦新体制に実力反撃

## 屈服敗北の道「再建」論議を破れ！

国鉄再建監理委員会の七月「分割・民営化」本答申を目前にひかえた六月二十一日、中曽根は、仁杉巖国鉄総裁を更迭、後任に杉浦前運輸事務次官をすえた。マスコミは一斉に「監理委と国鉄官僚の「分割」賛成・反対をめぐる路線的対立に断下る」などと騒ぎたてているが、事の本質は決してそうではない。われわれは、この更迭劇が国鉄「再建」の方法をめぐる対立などではなく実は、莫大な利権のぶんどり合いをめぐる対立であり、十万人首切り、国鉄労働運動解体という本質的な狙いにおいては支配階級の方針にいささかの対立もないことをはっきりと見据え、「分割・民営化」阻止、中曽根の総決算攻撃粉碎へさらに断固として闘いぬかなければならない。

### 労働運動解体ー10万人首切り強行 仁杉も杉浦も攻撃の狙いは全く同じ

マスコミ等は、今回の事態を「分割」反対派の東清劇と書きたてているが、皮相的評論につきる。仁杉前総裁らが立案した「経営改革のための基本方策」を監理委の「分割・民営化」本答申とどれほどの違いがあるというのか。

「基本方策」は、①今後五年間に十二万四千五百名を削減、六五年には十八万八千人体制とする、②約七万人の余剰人員は「三本柱」を軸に、国鉄から追いだす、③六二年までに二五兆円に達する長期債務については、九兆円は国鉄が負担、十五兆円は国で負担せよ、④赤字ローカル線等は、全て切り棄て及び第三セクター化というものである。一方監理委は、六二年度、全国六分割・民営化を軸に、①職員数を二〇万人前後とし、②八万人の余剰人員は特別立法で国鉄から追い出す、③六一年度三五兆円に達する長期債務（何んと二五兆円に青函トンネル・本四架橋、さらに余剰人員退職金二兆円を上乗せ）は、国が十七兆八兆円、新会社で十兆円、残り七兆八兆円を国鉄資産売却で、というものである。

### 利権争いの「仁杉更迭劇」

仁杉更迭劇が国鉄資産の売却、さらに十兆円をこすといわれる整備新幹線建設等の利権をめぐるものであることは明らかである。事態はしかし、それにとどまるものではない。中曽根は、本年度を「総決算」の最大の山場とす

え、その完遂のために総裁三選をも目指していると言われるが、そのためにこそこの巨大な利権を必要としているのである。その意味で、今回の事態は、戦後の総決算攻撃そのものと言える。今回の事態について「国民や労働者の意志を無視し、一方的に「分割・民営化」を強制するもの。もつとまじな再建案がある」などという再建論議にはまりこんだ見解が全く無力であることは明白である。

### 敗北の道「再建」論議埋没をうち 破り、今こそ労働者の実力決起へ！

杉浦は新任早々の記者会見で「私の考えに賛成いただけない人とは一緒に仕事ができない」と、言うことを聞かない者は、ドンドン首にするという姿勢をあらわにした。同時に、中曽根への絶対忠誠を誓った。そもそも杉浦は、運輸省鉄道管理局国鉄部長時代に、国鉄運賃値上げを行政の裁量で可能にする「運賃法の弾力化」に取り組むなど大衆収奪を率先してきた人物である。国鉄労働者の首を切り、国民・労働者に一切の犠牲をしいることを天職とする「首切り屋」杉浦を絶対に許すな。

七月「本答申」を前に総評に闘争指令権をタナ上げし、国労・動労千葉の首をさしだすことで延命をはからんとする動労革マルII松崎の裏切り・逃亡を許さず、不退転の決意で「分割・民営化」阻止、「総決算攻撃」粉碎へたちあがろう。

**7.8 全力決起しよう。**  
青 年 部 局 前 総 決 起 集 会  
★「名札」強要！不当労働行為許すな！7月啓申粉碎、過員攻撃勢

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！